

パネルディスカッション 7 企画概要

タイトル	在宅医療における病院地域連携室の役割 - 起点あるいはハブとして
------	----------------------------------

概要

在宅医療を上手く機能させるためには、在宅医・訪問看護師・ケアマネジャー等の連携・協働とともに、行政の関わりなどが重要となる。一方、在宅患者の7割近くが病院からの退院患者とされており、病院側から見ると出口でもある地域連携室は、在宅医療の起点になっていると考えられる。また、地域で発症した在宅患者であっても、一時的に（緊急）入院し再び在宅に戻る際には、病院地域連携室はハブとしての役割も担っている。すなわち、在宅医療をスムーズに軌道に乗せるためにも、病院地域連携室の役割は極めて重要と考えるが、病院側からも在宅側からも十分な理解・認識がなされていない感がある。

実際、病院側スタッフからは、退院困難な患者を早く退院あるいは転院させることだけが求められがちである。しかし、近年の高齢化ならびに平均在院日数の短縮に伴い、医療が必要なまま退院あるいは転院する患者が増えている。結果的に当該部門への看護師の参画・参入は増えているが、MSW 等、従前の事務職員との軋轢や役割分担の困難性が垣間見られることもある。一方、在宅側チームからは、緊急時の入院対応が期待されるものの、急性期病院の立場として、高齢患者の誤嚥性肺炎や再発性脳梗塞、老衰等に対しては、必ずしも受け入れ態勢が優しくない？ことで地域連携室が矢面に立つこともある。

今回のパネルディスカッションでは、全国でも先進的な取り組みをしている病院地域連携室から、医師・看護師・MSW の各立場で講演していただくとともに、診療所側の視点で、病院地域連携室への要望や課題等を語っていただく予定である。昨今、入院後の退院支援・退院調整に関しては、様々なアプローチが試みられているが、入院前の患者支援あるいは退院後の患者支援という視点はこれからの状況にある。地域連携室に所属するスタッフの意識改革と各職種のスキルアップを通して、病院と在宅（地域）をつなぐ病院地域連携室のさらなる機能強化を目指したい。そのような意味でも、本パネルディスカッションにおける議論等が、全国の病院地域連携室に属する職員への刺激になるとともに、各地域での在宅医療がスムーズに展開する上で若干でも寄与できれば幸いである。